

共同助成(福島県遊技業協同組合連合会)

「元気スタートアップ! 親子で楽しむティーボール教室」事業

楽しく遊べるティーボール体験を通して 子どもたちの体力、運動能力向上を目指す

東京オリンピックの野球・ソフトボール競技の開幕戦が行われる福島市。この絶好の機会を捉え、東日本大震災の原発事故による影響で低下した子どもたちの体力、運動能力を向上させるきっかけになればと、ベースボール型スポーツ「ティーボール」の教室が開催された。会場となった体育館では、子どもたちの笑顔がはじけた。



2019年3月14日付けの福島民友新聞に掲載された採録記事

東京オリンピックの開催を契機に 福島の子どもの運動能力向上を

福島県では東日本大震災の原発事故による放射能への不安から、子どもたちの屋外運動や外遊びが一時敬遠され、子どもたちの体力、運動能力が著しく低下したと言われている。現在は回復基調にあるが、依然として福島県が抱える大きな課題となっている。そのような中、飛び込んできた明るいニュースが、2020年の東京オリンピックで追加種目として開催される野球・ソフトボールの開幕戦が福島市で行われるという決定だった。

地元で行われる世界最大級のイベントは、子どもたちにとっても大きな関心事になることは間違いなく、この機会を生かし、関心が高まっているベースボール型スポーツを何とか子どもたちの体力、運動能力向上につなげるとともに、被災した子どもたちをフォローする地域コミュニティの形成、

さらには放射能による風評被害と喧伝されている事態の払拭にもつなげたいという考えのもと、2019年2月16日に福島市の十六沼運動公園体育館で、ベースボール型スポーツ「ティーボール」の教室が開かれた。

主催したのは福島民友新聞社、福島市私立幼稚園協会、東北復興ソフトボールアカデミーの3団体で構成される「元気スタートアップ!親子で楽しむティーボール教室実行委員会」で、幼児から楽しみ、様々な体の動きを学ぶことができるティーボールの普及に取り組んでいる。ティーボールとは、「投手のいない野球」とも言われ、攻撃側はティーに固定されたボールをバットで打ち、守備側は捕球・送球して得点されることを防ぐというシンプルな競技だが、打つ、走る、捕る、投げるという運動の基本動作を学ぶことができるうえ、ルールの自由度や安全性が高く、中国、台湾、韓国などにも輸出され、一大ブームとなっている。

子どもや保護者ら約100名が参加して 元気にティーボールを楽しむ

教室開催の当日、会場となった体育館には、福島市および周辺自治体に住む幼稚園児から小学校低学年までの男女とその保護者ら約100名が詰めかけた。教室では、アジアティーボール連盟理事長の丸山克俊東京理科大学名誉教授が講師を務め、ティーボールの基本を指導した。当日は幼稚園の先生にも来てもらい、ティーボールの普及に向けて先生たちにもイベントに参加・見学してもらったという。教室の様子は福島民友新聞で報道されたほか、特集紙面として掲載された。また、地元ラジオ局の福島コミュニティ放送(FM POCO)でも放送された。

会場でインタビューを受けた子どもは、「最初は難しかったけれど、何回かやるうちにちゃんと前に打てるようになったのでうれしかった」と話したり、「一緒に運動をすると、子どもがすごくいい顔をしていることに気づいた」と話す父親もいたという。当日は東京2020オリンピック・パラリンピック

ク復興ふくしま推進協会副会長の松本壺雄福島県野球団体協会会長が見学を訪れ、「野球人口の底辺拡大にもつながる非常に良い取り組み。今後も続けてほしい」とエールを送った。

「時間も人もノウハウもない三重苦のスタートだったが、プログラム構成やPR、用具の調達など、それぞれの得意分野で手分けし、無事に開催できた」と、実行委員会では振り返る。当日は福島県立橋高校ソフトボール部員16名がボランティアとして参加し、参加した子どもたちとの交流を楽しみながら運営に協力してもらったことも大きな力になったという。

福島県遊技業協同組合連合会より

福島の子どもの体力・運動能力向上に役立つ有意義なイベントだと思い助成しました。今後も様々な活動を支援していきたいと思えます。



止まったボールを打つ「ティーボール」は小さな子どもたちでも楽しめる



福島市および周辺自治体に住む子どもと親子が参加

助成団体:元気スタートアップ!親子で楽しむティーボール教室実行委員会



次世代の社会を支える子どもの健やかな心と体を育むために

東日本大震災から8年を迎え、震災の記憶の風化とともに子どもたちへの支援の輪も徐々に小さくなっていくことが危惧される中、このたび助成をいただきまして誠にありがとうございました。多くの子どもたちとその保護者に喜んでもらうことができました。子どもたちの笑顔と元気に走り回る姿は、震災復興の道を歩む私たち県民に大きな勇気を与えてくれました。

元気スタートアップ!親子で楽しむティーボール教室実行委員会
事務局長 平田 哲さん